

新規指定の重要文化財

名 称	きゅうびとうけじゅうたく 旧尾藤家住宅	棟 数	8 棟
所 在 地	きょうとふよさぐんよさのちょうあざか や 京都府与謝郡与謝野町字加悦1085 番地		
所 有 者	与謝野町		
指定基準	(五) 流派的又は地方的特色において顕著なもの		
建 物 名	構 造 形 式	建 立 年 代	
おもや 主屋	木造、桁行一三・二メートル、梁間八・〇メートル、二階建、切妻造、四面下屋附属、南西浴室附属、棧瓦葺  ろじもん へい 附・露地門及び塀 一棟 一間一戸薬医門、土塀、折曲総延長一八・一メートル	慶応元年 (1865)	
おくざしき 奥座敷	木造、桁行一二・〇メートル、梁間四・七メートル、一部二階建、東面入母屋造、西面切妻造、棧瓦葺、南面縁、洗面及び便所附属、東面濡縁及び雪隠附属、銅板葺一部棧瓦葺	江戸末期 ／大正末期増築	
うちぐら 内蔵	土蔵造、桁行五・九メートル、梁間四・一メートル、二階建、切妻造、棧瓦葺、南面縁附属、棧瓦葺	慶応元年 (1865)	
しんざしき 新座敷	木造、桁行八・三メートル、梁間六・四メートル、二階建、切妻造、棧瓦葺一部銅板葺、二階南面ベランダ附属  きやくようよくしつ べんじょ 附・客用浴室及び便所 一棟 木造、桁行五・八メートル、梁間二・六メートル、切妻造、棧瓦葺一部銅板葺	昭和 5 年 (1930)	
ざつぐら 雑蔵	土蔵造、桁行五・九メートル、梁間三・九メートル、二階建、切妻造、棧瓦葺	文化 13 年 (1816) ／文久 3 年 (1863) 移築	

しんぐら 新蔵	土蔵造、桁行五・四メートル、梁間四・九メートル、二階建、切妻造、棧瓦葺  つぼにわべい 附・坪庭塀 一棟 土塀、折曲総延長四・九メートル	明治後期
おくぐら 奥蔵	土蔵造、桁行一〇・八メートル、梁間七・六メートル、二階建、切妻造、棧瓦葺	明治 21 年 (1888)
こめぐら 米蔵	土蔵造、桁行四・九メートル、梁間三・九メートル、切妻造、棧瓦葺	明治後期

[解説]

旧尾藤家住宅は、与謝野町加悦伝統的建造物群保存地区の中ほどに位置する。丹後ちりめんで栄えた当地域を代表する縮緬繊維問屋で、地区内でも最大級の敷地を持つ。正面に前庭付きの主屋が建ち、背後の中庭周囲に奥座敷、新座敷、奥蔵などを整える独特の屋敷構え。

主屋、奥座敷、内蔵、雑蔵は、幕末に造営整備された。主屋は、現在の兵庫県豊岡市日高町に所在した建物を移築した地区内最古級の遺構で、但馬と丹後の民家の特徴を巧妙に取り入れる。雑蔵は、現在の福知山市に建てられていた土蔵を移築したものである。その後も明治・大正期に奥蔵や新蔵、正面の露地門などが整備され、北丹後地震後の昭和 5 年（1930）に新座敷が建設されるなど、増改築を重ねて現在に至っている。

新築や増改築など建築の経緯が明らかで、洋風の応接間や煎茶趣味の新座敷など、近代化に伴う新しい趣を取り入れて形成された屋敷は、近世末期から近代にかけて繁栄した加悦地区の時代の変容を写す遺構として重要である。



旧尾藤家住宅 主屋及び附・塀 外観



指定建物外観 手前より奥座敷、内蔵、新座敷、雑蔵、新蔵、奥蔵



旧尾藤家住宅 主屋内部



旧尾藤家住宅 新座敷 応接間